



山形大学で学んだこと、過ごした日々、それらはさまざまな成果となって山形の歩みに燦々と火を灯し続けています。現役の学生やOBたちの活躍する姿を通して、そこに花開いた成果のわずかに拍手を送り、新たな成果への糧とするものです。



活動の成果

つるおかユースホステル運営
菊池智恵 大学院農学研究科修了
(平成13年3月)



大学での学びを活かし、地域と協調し、大好きな森をもっと元気にしたい。

大学・大学院では森林生態学を専門としていた菊池さんは、大学時代の先輩と結婚し、ご主人とともに鶴岡市の三瀬海岸にほど近い気比の森に建つ「つるおかユースホステル」を運営している。気比の森は、海と山に挟まれた貴重な原生林、森を愛する菊池さんにとっては願ってもないロケーション。そこが職場であり住まいにもなっている。環境問題が深刻化する中、夫婦そろって環境教育に重点を置いたさまざまな活動を行っている。そんな二人がなぜユースホステル？実は、ユースホステルとはドイツで生まれた青少年のための簡素な旅の宿ネットワーク。その旅の多くは地域の自然環境を知ることが目的とされていた。つまり、ユースホステルこそが環境教育

の拠点となって然るべきものなのだ。
ユースホステルを利用されたお客さまへの自然ガイド、地元の保育園の子どもたちを対象とした自然遊び、地域の人々との連携で成果を上げている植林活動など、森の大切さ、楽しさ、素晴らしさを実際の活動を通してアピールしている。ご主人とは、同じ環境問題に取り組みながらも微妙に分野が違っているため、互いに学び合い刺激し合う関係だという。「学生時代は自分のやりたいことや良心に素直でいられる時。学生だからできる地域との関わり方もたくさんあります。学外活動への積極的な参加をおすすめしたいですね。」と後輩たちへのメッセージで締めくくってくれた。



研究の成果

工学部機能高分子工学科4年
小川優子



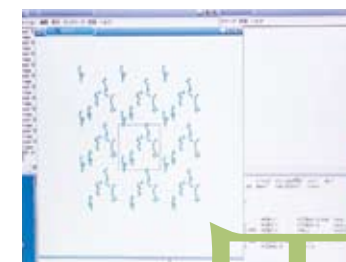
マンツーマンの指導で研究に手応え、バイトでは人脈を広げています。

「高分子」という一般的には耳慣れない分野の研究に取り組んでいる滝本・三保研究室の紅一点、小川優子さんは工学部機能高分子工学科の4年生。東京生まれの埼玉育ち、北上指向が強いこともあって山形大学を選んだ。中高校生の頃から理系が得意で、覚える学習よりも考える学習が好きだった。耳慣れない「高分子」もその正体を知るととても身近な存在であることに気づく。食品で言えば寒天やそば、ペットボトルやプラスチック製品の多くは、高分子を暖めて固体と液体の間のような柔らかい状態にして目的の形に成型されたものなのだ。その高分子の可能性について実験と理論・シミュレーションにより研究している。その中でも小川さんが取

り組んでいるのは二次元高分子の計算機シミュレーション分野で、ほとんどがコンピュータ上での研究である。
そんな小川さんも研究室を出れば、家庭教師やガソリンスタンドでのバイト、スノボに飛び回る普通の女子大生。ただちょっと違うのは、頭脳も性格もいたって理系というのだろうか、超サバサバでマイペース。研究の際の集中力はすごそう。今後は、高分子に関するより高度な能力を身につけるために大学院課程に進む予定。小川さんの研究成果が私たちの暮らしの中にひょっこり登場する日が来るかもしれない。



二次元高分子の計算機シミュレーションを専攻しているのは小川さん一人ということで滝本教授からの指導もマンツーマン。



果